

**お子様は何年生ですか？**

4年男子 5  
4年女子 8  
5年男子 1  
5年女子 8  
6年男子 5  
6年女子 4

**先生が子どもに伝えたいと思ったことがお子様に伝わったとおもいますか？**

伝わらない 0  
だいたい伝わったと思う 9  
伝わったと思う 28

**先生の話す速さはお子様たちに理解できたと思いますか？**

速すぎる 0  
大体理解できたと思う 9  
理解できたと思う 26

**先生の話す言葉はお子様たちに理解できたと思いますか？**

難しい 0  
大体理解できたと思う 10  
理解できたと思う 25

**ご自身で印象に残ったことや新たに発見したことがありましたか？**

清潔な水、電気などがあることが豊かさの指標であることに驚いた。これからも感謝しながら、この環境を守っていけるよう考える必要がある。3  
貧しい国（難民キャンプなど）に援助する場合でも、ただ援助することが良い事ではなく、その国にとって良いやり方を工夫していること。2  
すべてを考える材料となった。大人になった今からでも勉強していかなければいけない。  
子ども達が国際援助論に対して、積極的に意見を言える知識を持っていることに驚いた。  
国際援助の仕方 = 自立させる  
子ども達に問いかける授業は、考えるきっかけとなりとても良かった。  
本当の援助とは、ものを与えることではないということが印象的でした。  
先生のテンポの良い話し方、聞き取りやすい声、問いかけの多用が、聞き手をどんどん引き込んでいき、話術の大切さを感じた。  
自分で考えることの大切さを知った。新しいことを知る楽しさも知った。2  
日本の貧富を判断する上で、軸の設け方によって、子ども達が貧しいと思っているのは何だろうかと興味がわいた。  
アフリカでは1歳になるまで名前をつけてもらえない地域があること。  
日本の常識だけでは、世界の標準は理解できないと思った。  
日本は豊かなところもあり、貧しさもある。お金はあっても家族の会話が貧しい。  
4  
開発途上国に対する日本の援助・協力は、親と子の関係にも通じるところがあるということ。見方を変えると素晴らしいところが見えてくるということ。

日本のインフラの素晴らしさを再認識した。  
難民への援助の仕方を初めて知った。ポイントは困っている人が、その地域で暮らせる援助の仕方であること。3  
世界銀行の援助があって、日本の復興、高度経済成長があったこと。  
先生の多忙な生活が印象的であった。  
貧しいからといって、そのまま物をあげるのではなく、自分でやることを教える。  
子どもの教育でも、同じことがいえて、自分でもそれをやるべきだったと反省した。  
豊かという言葉には、物質的なものと心情的なものがあり、とても難しいと思った。2  
豊かとはどういうことなのか、考えるきっかけになった。  
ラオスの人々が自ら学校を設立させた話を聞いたが、日本は行政が何でもやってくれて当たり前という要求型の人が多いと思う。今後の日本人のありかたについて考えるヒントとなった。

**今まで子ども大学の授業を受けてお子様の考え方や興味の持ち方が変わったと思いますか？変わったとしたら、どんな点で変わりましたか？**

変わらない 0  
少し変わった 18  
変わった 8  
何でも積極的になった。2  
子ども大学のテーマについて、調べたり、親子で話し合ったりという機会が増えた。  
ニュースに目を留めるようになった。2  
いろいろなことに興味を持つようになった。自ら調べるようになった。3  
人の話をよく聞くようになった。  
すすんで勉強するようになった。  
新聞やニュースの記事を話題にするようになった。4  
知識が増えた！と子どもが話している。  
身の回りだけでなく、日本、世界など広い視野で興味を持つようになった。  
少しずつ大人びた目線で、物事を見るようになった。  
自分と社会とのつながりを感じることができているようだ。  
視野が広がった。進学することへの不安が軽減したようだ。

**今まで受けた授業でどの授業が一番よかったと言っていますか？**

飛行機の授業 2  
スカイツリー 2  
生きる力 1  
タッチラグビー 1  
なぜチンパンジーは石器をつくれないのか 2  
英語 1  
日本は豊かか貧しいか 12  
TPP 1  
太平洋戦争について 2  
すべて 2